

# 3

## 『広域交流新時代の幕開け』戦略

### 【戦略のねらい】

広域交通ネットワークを活用した国内外に開かれた観光や物流などの交流を拡大します。

### 【施策展開の方向】

本県がこれまで時間をかけて築き上げてきた陸・海・空の広域交通ネットワークが、これから数年のうちに概ね現実のものとなり、茨城の広域交流新時代が幕開けします。今後は、これらの発展基盤を最大限に活用した交流を促進するとともに、産業の振興を図っていくことなどに取組の中心を徐々にシフトしていく必要があります。

このようなことを踏まえ、広域交通ネットワークを活用した国内外に開かれた観光や物流などの交流拡大を目指していきます。

(注)基本計画の関連する章・項・節です。

### ● 広域交通の利便性向上

▶別冊 基本計画[1章 5項 1,2節]

高速道路のインターチェンジ(IC)や鉄道駅、港湾、空港など交通拠点を連結する幹線道路網の形成、高速道路の既存サービスエリア等を活用したスマートIC<sup>※1</sup>の整備、高速バス路線の充実などを進めます。

さらに、JR常磐線の東京駅乗り入れやつくばエクスプレス(TX)の東京延伸などにも取り組み、広域交通の利便性の向上を図ります。

### ● 観光客5,000万人の実現

▶別冊 基本計画[1章 1項 2節 1章 3項 6節 1章 5項 6節 1章 6項 2節 3章 4項 2節]

つくばサイエンスツアー<sup>※2</sup>の推進や、いばらきフィルムコミッション<sup>※3</sup>によるロケ地茨城のPR、さらには、芸術・文化・歴史資源の活用や、県北地域を中心としたグリーン・ブルーツーリズム<sup>※4, ※5</sup>、エコツーリズム<sup>※6</sup>等の参加体験型観光の強化など、筑波山や霞ヶ浦等の本県の変化に富んだ豊かな自然環境や科学技術の集積などの地域資源を活かした観光のイメージアップを図ります。

また、TXの開業による効果を県北地域を始め県内全域に波及させるため、地域間の連携による滞在時間の長い広域的な周遊観光や、隣接県等と連携した国際観光などを推進し、年間5,000万人の観光客の誘客を目指します。

#### ※1 スマートIC

高速道路を有効活用し、交通の円滑化を通じた地域の活性化を図るために整備するETC専用のインターチェンジ。通常のインターチェンジより建設・管理コストの削減が可能。

#### ※2 つくばサイエンスツアー

筑波研究学園都市に立地する研究機関等の施設の公開を進め、県内外からの見学・学習の場として活用することで科学技術を体感することができるツアー。

#### ※3 フィルムコミッション

映画、テレビドラマ等の撮影支援やロケーション誘致等を行う非営利機関。

#### ※4 グリーンツーリズム

農村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

● **新たなライフスタイルの発信による交流・定住の促進** ▶別冊 基本計画[1章 5項 5節 1章 6項 1節]

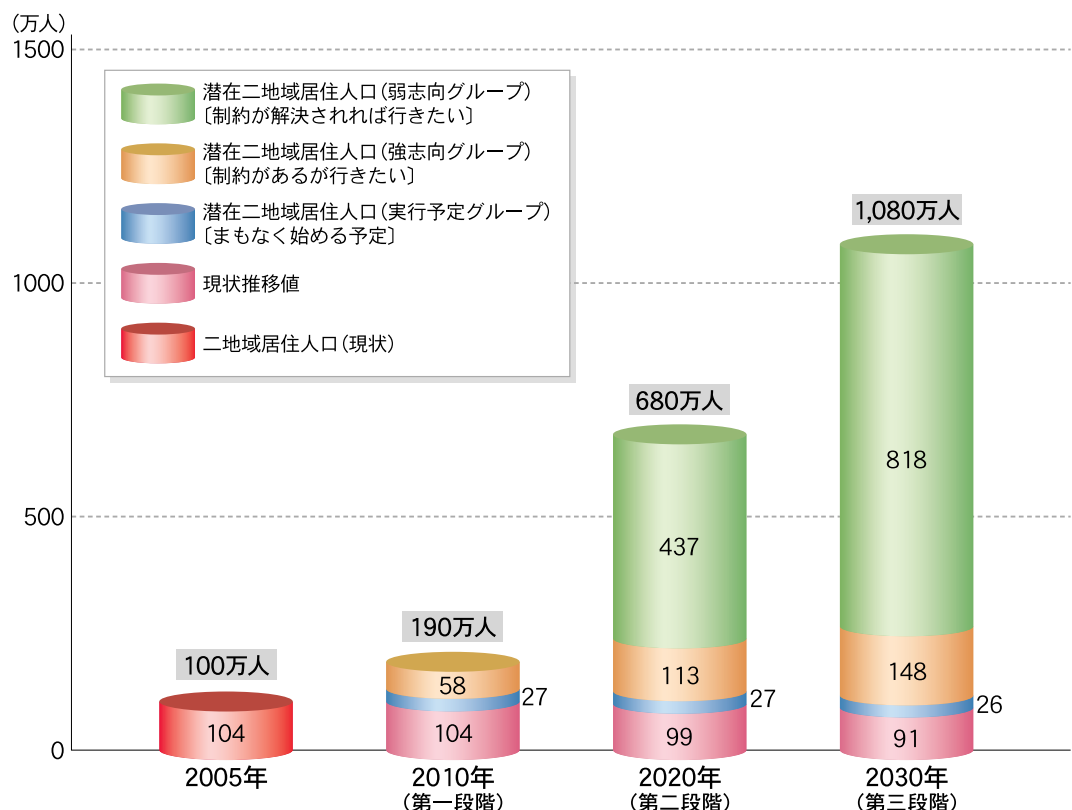
知的な環境の中で都市的な快適さと自然のうるおいを取り入れたTX沿線の新しい暮らし方である「つくばスタイル」のブランド化を図ります。

また、豊かな自然環境に包まれた県北地域ならではのスローライフの魅力について首都圏をターゲットに若者から団塊の世代、高齢者に至るまで幅広くアピールし、県北地域を舞台とした新たなライフスタイルとしてブランド化することにより、交流・二地域居住<sup>※7</sup>などを促進します。

● **広域的な物流システムの構築** ▶別冊 基本計画[1章 2項 1節 1章 5項 3,4,7節]

港湾と高速道路網を活用した東京湾に依存しない首都圏における新たな物流ルートの形成や、港費減免等の優遇措置の導入などによる重要港湾の定期航路の拡充、さらには、百里飛行場を活用した航空貨物輸送なども視野に入れながら、新たな広域的物流システムを構築します。

**二地域居住人口の現状推計と将来イメージ**



(出典)二地域居住人口研究会「都市と農山漁村の『二地域居住』への提言」

※5 ブルーツーリズム

漁村に滞在して、漁業体験やその地域の自然や文化に触れ、地元の人々との交流を楽しむ余暇活動。

※6 エコツーリズム

自然、歴史、文化など地域固有の資源の保護・保全を図りながら、観光資源としての活用を図る余暇活動。

※7 交流・二地域居住

都市住民が多様なライフスタイルを実現する手段の一つとして、農山漁村地域等において、中長期的・定期的・反復的に滞在することなどにより、当該地域との一定の関係を持ちつつ、都市の住居に加えた生活拠点を持つこと。

# 3 『広域交流新時代の幕開け』戦略

## 【数値目標】

### ● 県内主要都市相互間の自動車による平均移動時間



現状値(H16):約88分



目標値(H22):約70分

※道路網の整備による移動時間の短縮状況を示す指標であり、県土60分構想<sup>※1</sup>の実現に向けて、現状値の2割の時間短縮を目指します。

### ● 年間観光客数



現状値(H16):4,304万人



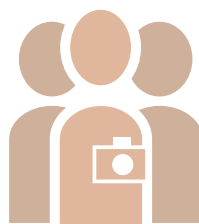
目標値(H22):5,000万人

※交流施策の重要な部分である観光の成果を示す指標であり、初の観光客5千万人の達成を目指します。

### ● 本県の観光に対し満足している観光客の割合



現状値(H16):60%



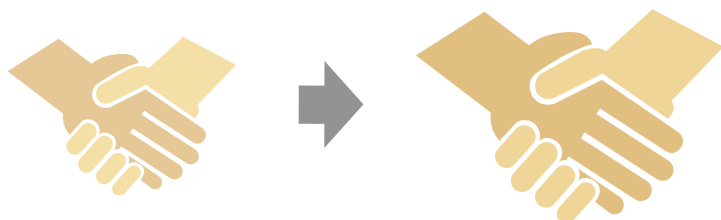
目標値(H22):80%

※観光ニーズへの対応状況といった観光の質的な面の向上を示す指標であり、満足していない観光客の半数を満足とすることを目指します。

※1 県土60分構想

県内の主要都市間を概ね60分で連絡することなどを基本目標とした道路網の整備構想。

## ●都市農村交流施設利用者数

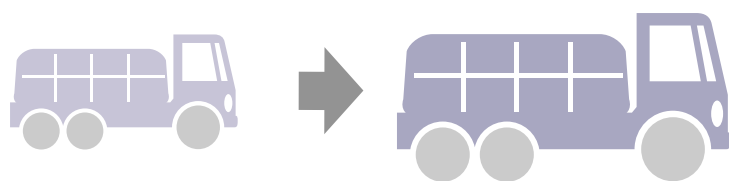


現状値(H16):4,954千人

目標値(H22):5,400千人

※グリーンツーリズムなど都市と農村の交流の状況を示す指標であり、現状値の1割増を目指します。

## ●首都圏における貨物流動量のシェア



現状値(H15):11.0%

目標値(H22):13.0%

※首都圏における新たな物流体系の構築成果を示す指標であり、近年の最高値である平成11年度の12.5%を超えるシェアを目指します。